

正しい知識で安全・安心！ ～HIV 陽性者のケアに必要な基礎知識～ に対する質問

Q: C 型肝炎は、針刺し後の予防薬はないが、治療薬は存在すると理解してよいでしょうか。また、肝炎ウイルスへの暴露は「針刺し」を想定すれば十分でしょうか。

A: C 型肝炎については、現在 SVR（持続的ウイルス学的反応）を達成し、ウイルスを排除できる治療薬が確立されています。ただし、これらは針刺し直後に使用する「予防薬」としては位置付けられていません。針刺し事故後に行える特異的な予防薬はなく、感染が成立していないことを定期的に確認することになります。また、暴露経路は医療従事者の針刺しに限らず、海外では違法薬物使用時の注射器の使い回しが問題となっております。また、性感染症としての感染経路も重要です。頻度は低いものの、母子感染の報告もあります。

Q: HIV 患者に使用した針で針刺しをした場合の予防内服薬について、以前は副作用が非常に強かった印象がありますが、現在の薬剤はどうでしょうか。

A: 15 年以上前に用いられていた曝露後予防（PEP）では、下痢や全身倦怠感などの副作用が強く、4 週間の内服を完遂できないケースも少なくありませんでした。現在使用されている PEP 薬は副作用が大幅に軽減されており、日常業務を継続しながら 4 週間内服できるケースがほとんどです。過度に不安を感じる必要はなく、適切な評価と早期開始が重要です

感染症版 BCP（業務継続計画）を高齢者介護福祉施設で策定するための How to に対する質問

Q: BCP 策定にあたり専門家への相談が望ましいとのことですが、北海道で札幌市外の場合、どこに相談すればよいでしょうか。

A: まずは、各自治体の保健所（保健福祉部門など）へ相談することをお勧めします。また、現在の診療報酬・介護報酬制度では感染対策に関する加算が設けられており、医療機関と介護施設との連携体制が構築されている場合があります。加算に関わる連携医療機関や感染対策の専門家に相談することも、有効な方法の一つです。

Q: スライド 20 枚目「（パターン 1）濃厚接触者が明確かつ少数であり、感染拡大が限定的と予想される場合」の説明で、『コホートしないこと』とありましたが、詳しく教えてください。

A: ここでお伝えしたかったのは、「陽性者をコホーティングしない」という意味ではなく、「濃厚接触者をコホーティングしない」ことが重要という点です。言い換えると、異なる陽性者とそれぞれ接触した複

数の濃厚接触者を、1つの部屋や集団としてまとめて管理すべきではないという意味になります。接触した陽性者が異なる場合、感染の有無や感染時期もそれぞれ異なる可能性があります。そのような接触者同士を同一空間で受け入れてしまうと、接触者間で新たな感染が生じ、感染拡大のリスクが高まる恐れがあります。

利用者・スタッフ・環境を守る「おむつ交換」 ～WOCNとCNICの連携とスタッフ教育の実際～ に対する質問

Q: 施設内に認定看護師がいない場合、介護職員への正しいおむつ交換の指導はどう進めるのがスムーズでしょうか。

A: 現場の職員の方々は、これまでの経験や工夫を積み重ねてられています。まずは現状を尊重しつつ、連携医療機関や協力施設に相談しながら、施設の実情に合った方法へ少しずつ改善していくことが大切です。無理に一律の方法を押し付けるのではなく、段階的な改善と共有がスムーズな定着につながります。

Q: 高齢者施設で勤務していますが、安心のためにダブルグローブ（二重手袋）を着用しています。意味があるのでしょうか。

A: 通常のケア場面において、ダブルグローブは推奨されていません。二重にすることで手袋交換のタイミングが遅れ、かえって環境汚染を拡大させたり、手指衛生の機会を失う可能性があります。一重の手袋を場面ごとに適切に着脱し、その都度手指衛生を行うことが最も重要です。研修時に蛍光塗料などを用いて「汚染の見える化」を行うと、二重手袋の問題点が理解しやすくなります。近隣の認定看護師等に相談し、実演を交えた教育を行うことが有効です。

誤嚥性肺炎を防ぐために ～嚥下障害の早期発見と誤嚥性肺炎予防のケア～ に対する質問

Q: 認知症などにより口腔ケアを拒否される方には、どのようなアプローチが望ましいでしょうか。

A: まずは、拒否の理由は何か、どの部位・どの方法であれば受け入れが可能かを観察することが重要です。拒否の背景には、不安や恐怖、「何をされるか分からない」という気持ちがあることも少なくありません。「これから口をきれいにしますね」といった事前の声掛けや安心できる関係性づくりが大切です。いきなり口腔内に触れるのではなく、口唇を湿らせる、温かいタオルで顔を拭くなど、口腔内から遠い部位からケアを始める方法も有効です。また、洗面所へ行くなど場所の工夫や、本人ができる部分は可能な範囲で任せることも重要です。すべての手順を完璧に行うことよりも、口腔ケア用のシートで拭くだけでも一定の効果があります。